

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	観光名所（従業員）	・今年、例年よりも雪解けが早く進みそうなことから、春の行楽シーズンも長くなり、インバウンドも含めて観光客でにぎわうことが期待できる。特にインバウンドの個人客は、消費額も大きいことから、今後の景気が上向くことを期待している。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後については、予約が順調に入っていることから、景気が良くなると期待している。
	○	一般小売店（経営者）	・少しずつ社会全体の雰囲気が明るくなっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・これから雪解けが進み、客が活動的になってくる。春闘での賃上げも期待できることから、消費が上向くと期待している。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	・ここ数年、春が短く、夏が長くなっていることで、北海道においても、本州と同じような時期に春物、夏物が売れるようになっている。本州とのタイムラグがなくなっていることで、販売促進が効果的にできるようになっており、今後の売上増加につながることを期待できる。
	○	家電量販店（経営者）	・蛍光灯の製造終了がCMなどで流れ始めるようになったことで、LED照明の受注が増えている。また、エアコンの2027年問題の影響で、エアコンの販売も順調に推移することが見込まれる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・車両取得時の環境性能割が3月で廃止されることで、購入時の客の負担が減ることから、今後の販売量増加を期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・これまでの買い控えの反動もあって、4月までの先行販売数が堅調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・3月は、年間で1番の商戦期であり、進学や就職などによる春の新生活需要を期待できる。また、3G通信サービスの終了に伴う顧客獲得や若年層向け料金プランの強化などの販売促進策による効果も期待できる。ただし、今後も、高い目標に向けて努力が必要な状況は続くと思われるため、劇的な改善までは見込めない。
	□	商店街（代表者）	・減税や給付金の支給、賃上げなどの効果で、国民の所得が増加することが見込まれる。それに伴って、景気も上向くことを期待している。
	□	商店街（代表者）	・中国からのインバウンドが減少している一方で、他の国からのインバウンドが減少分をカバーしており、来客数に大きな変化がみられない状況となっている。ただし、国籍の変化により、客の買物志向が大きく変わり、売れる物が変わったため、品ぞろえとのかい離が生じている。売上につなげていくためには、客のニーズをもう少し把握する必要がある。
	□	商店街（代表者）	・百貨店などの閉店に伴い、中心街では小規模の専門店が中心となっていることから、今後、来客数が大きく増加することは見込みづらい。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・酒類の販売量が上向いてくるまで、しばらく時間が掛かるとみられる。
	□	百貨店（販売促進担当）	・依然として、物価高騰が消費者の生活を圧迫していることで、客の購買意欲が上向いてこない状態が続いている。今後についても、急激に状況が好転することは見込みづらいことから、しばらくの間は横ばいでの消費行動が続く。
	□	スーパー（店長）	・今後、食料品の消費税引下げなどに向けた具体的な動きが出てくるまで、景気はさほど変化のないまま推移する。
□	スーパー（店長）	・食料品の消費税引下げに向けた動きについて、先行き不透明な部分があるため、今後、消費に対して客が慎重になることが懸念される。	
□	スーパー（店長）	・今後の情勢次第の面があるため、現時点では景気がどうなるか判断が付かない。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・ガソリンの暫定税率廃止、電気・ガス料金支援などによるエネルギーコストの負担軽減はあったものの、実質賃金が物価上昇に追い付いていないことから、今後も客の財布のひもは固いまま推移する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	・値上げに伴い、商品単価が上昇していることから、売上は増加傾向にあるものの、買上点数が減少している。今後も客の節約志向は続くと思われる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・生活支援を目的とした商品券の配布により、一時的に増えた客に対して、継続して来店してもらうための動機付け、仕掛けづくりが、今後重要になってくる。ただし、取組内容によって、店ごとの差が出てくることも見込まれる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・おにぎりを始め、値上げが続いていることで、客が価格に対して敏感になっている。客の節約意識は高いままであり、余計な物を買わない状況にあることから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・観光地では、今後も、中国からのインバウンドが大幅に減少したまま推移するとみられることから、売上の回復は見込めない。客の消費行動が回復するような見通しも立たない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・今後、新年度の買換え需要のピークを迎えるものの、先物オーダースーツの需要が低迷していることから、客の購買意欲が大きく低下していることがうかがえる。そのため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・今後も、物価高の影響は払拭できないと見込まれることから、景気動向は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・今後については、タイヤ交換の繁忙期となる。客の利用が、タイヤ交換だけで終わるのか、販売にもつながるのかは、現時点では予測しづらいものの、新型車の販売が少しずつ増えてくることから、多少は受注が増えると期待している。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	・生活必需品以外の売上は、今後も大きく変わらないと見込まれる。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（役員）	・消費動向に変化がみられず、これから大きく変わるような要因も見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・新規客の開拓は厳しいものの、既存客からの相談や健康指導に時間が割けることはプラスである。健康相談を希望する客を1人でも多く増やすことで、売上につなげていきたい。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔造花〕（店長）	・例年であれば、これから繁忙期を迎える時期であるものの、物価高の影響が懸念される。ただし、これまでの客の雰囲気から、今後も落ち着いた状態が続くとみられる。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・地元客による高級店利用が減少しつつあることから、できるだけ売上を落とさないような対策を講じたい。飲食業界全体の景気は、円安の影響でインバウンドが多いうちは大きく変わらないとみられる。ただし、ここに来て、世界や国内の情勢が刻々と変化していることから、先行きが読みづらくなっている面もある。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・インバウンドについては、さほど変動がみられないものの、国内観光客の動きが鈍くなっている。国内景気が回復すれば、観光客全体の底上げにもつながると期待しているものの、現状では変化がないまま推移するとみられる。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	・3月はイベント開催に伴う来客数の増加、単価上昇を期待できるものの、4月は観光のオフシーズンとなることから、需要の減少が見込まれる。全体としては、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・直近の動向に加え、消費税の引下げが行われるとしてもしばらく先になると見込まれることから、今後も大きな変化のないまま推移することになる。ただし、国内外の社会情勢の変化により、景気が大きく変化することも考えられる。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・今後について、物価上昇や為替の動きなど気になる点はあるものの、身の回りの仕事や消費動向に大きな変化はないまま推移すると見込まれる。そのため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・例年と比べて、温暖な天候が続いていることで、人流が増加している。そのため、今後、住民の消費行動が活発になることを期待している。

□	タクシー運転手	・物価の高騰が落ち着くまで、しばらく時間が掛かるとみられることから、当分の間、景気は変わらない。
□	観光名所（職員）	・来客数の動向が変わるような要因が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
□	美容室（経営者）	・値上げによるマイナスの影響が、ここ半年で徐々に解消してきた雰囲気がある。今後については、多少ではあるものの、売上が増加することを期待している。
□	住宅販売会社（経営者）	・現政権下で経済対策が進むことを期待しているものの、住宅に関連する対策が余りみられないことから、今後も厳しい状況が続く。
□	住宅販売会社（従業員）	・建築単価が高止まりしていること、住宅ローン金利が上昇基調にあることから、客が購入を様子見る傾向がみられる。そのため、今後も景気は変わらない。
▲	百貨店（売場主任）	・ボリューム層の消費マインドが低迷している。ファッション関連では、これから春物や夏物が動き始める時期となるものの、引き続きボリューム層の購買が苦戦すると見込まれる。
▲	スーパー（従業員）	・値上げの動き次第の面はあるものの、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・地方自治体の物価対策としての商品券配布により、一時的な需要が発生しているものの、4月頃には効果がなくなるとみられる。その後は、先行き不安などから、販売量が落ち込むことが懸念される。
▲	乗用車販売店（経営者）	・人口減少や高齢化の進展に伴って、耐久消費財を購入しない又は更新しない世帯が増加するとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・車両取得時の環境性能割が3月で終了することから、3月の車両登録を控える客が多く、決算に向けての数字が厳しくなっている。
▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・イラン情勢の影響により、今後、原油価格が上昇することが懸念される。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・2月はインバウンド需要が好調であった。3月以降は、インバウンド需要が落ち着くことから、景気はやや悪くなる。3月以降も観光客が当地を訪れるような魅力ある施策が打ち出されることを期待している。
▲	旅行代理店（従業員）	・今後については、ゴールデンウィーク期間を除けば、主たる観光コンテンツもないことから、航空機利用による北海道への人流が減少することになる。初夏を迎え、観光需要が増加してくる6月まで、景気は低調に推移することになる。
▲	タクシー運転手	・3月までの雪の降る時期は、タクシーの利用が多く、前年の値上げ効果もあって、売上にも期待できる。一方、雪解けが進み、暖かい日が続くようになると、タクシーの利用が減り、売上も減ってくる。特に今年は、前年の値上げの影響で、タクシーの乗り控えが生じることが懸念される。
▲	タクシー運転手	・4月に、運賃の引上げを実施する予定であることから、その後の客の乗り控えが懸念される。
▲	タクシー運転手	・今後については、雪解けに伴って、タクシーの乗客数が減少することが見込まれる。
▲	美容室（経営者）	・今後の景気はやや悪くなる。景気を向上させるためには、消費税の引下げよりも社会保険料の負担軽減が望まれる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・一部の投資向けマンションを除くと、物価上昇率を上回るような賃金の上昇がない限り、実需としての分譲マンション市場はますます縮小するとみられる。
×	衣料品専門店（経営者）	・物価高の大きな要因である円安が続いていることから、今後の景気は悪くなる。
×	観光型ホテル（経営者）	・全国的に中国からのインバウンドの団体旅行が減少したことで、他国からのインバウンドの奪い合いが生じている。そのため、集客も単価も厳しい状況となっている。国内客は、物価高の影響により、旅行需要の減少が顕著にみられる。これらのことから、今後の景気は悪くなる。
◎	—	—

動向 関連  (北海道)	○	食料品製造業（従業員）	・今後3か月程度で、中国からのインバウンドの動きが大きく変化することはないとみられるものの、国内観光客の動きが上向いてくる時期であるため、今後の景気はやや良くなる。	
	○	建設業（経営者）	・公共工事における労務単価の上昇率は、物価の上昇率を下回っているものの、設計単価の引上げが予定されている。このため、今後の景気はやや良くなる。賃金も多少は引き上げることができるようになる。	
	○	建設業（役員）	・公共土木工事については、新年度案件の入札が続いていることから、今後の新規受注の増加が期待できる。さらに、現政権による積極財政の推進により、公共投資の着実な執行も期待できる。民間建築工事については、次年度繰越し分と新規着工分により、新年度が始まった時点で、年間計画水準を確保できる見通しである。これらのことから、新年度はこれまでよりも一段と好調な滑り出しとなる。	
	○	輸送業（支店長）	・春を迎えて、物流量が増加することを期待している。	
	○	金融業（従業員）	・大企業において、4年連続となる大幅な賃上げが見込まれ、中小企業においても、人材流出防止に向けて賃上げが進むことが見込まれる。物価上昇率伸びも鈍化していることから、今後、実質賃金がプラスに転換し、消費マインドが上向くことを期待している。	
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・労働力不足、資材価格の高騰などの懸念事項はあるものの、今後も高水準の建設投資が継続すると見込まれる。スーパーゼネコンを中心に、受注環境が高い水準で推移すると見込まれることから、当面は好調に推移すると見込まれる。	
	□	農林水産業（経営者）	・3月になると、りんごの貯蔵品が出回り始めるとみられるものの、4月には在庫水準が低下し、出荷量も先細りになると見込まれる。	
	□	食料品製造業（従業員）	・受注量が大きく増減するような案件が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。	
	□	食料品製造業（従業員）	・製品内容の変更について、幅広く検討しているものの、実際に動き出すまでまだ時間が掛かることから、今後も販売量などは変わらないまま推移する。	
	□	金属製品製造業（従業員）	・人口減少局面に転じているなか、円安、原材料価格高騰などの影響が続いていることから、今後、新築着工棟数が増加するような要因が見当たらない。	
	□	建設業（従業員）	・業界的に、設計部門も施工部門も人員が不足していることから、今後しばらく景気は変わらない。	
	□	広告代理店（従業員）	・景気が良くなるような要因が見当たらない。	
	□	司法書士	・売買や新築などの不動産取引と関連した案件の受注が減少しつつあることから、今後も景気は変わらない。同業者においても、同様の傾向がみられている。	
	□	コピーサービス業（従業員）	・仕入価格が高騰していることから、販売価格の引上げを行っているものの、それが利益につながっていないことから、今後も厳しいまま変わらない。	
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・新年度において、仕事量が増えると見込まれるものの、秋頃からの話であるため、まだしばらくは現状と同様の水準で推移することになる。	
	▲	司法書士	・現政権において、食料品の消費税引下げに向けた検討が進められているものの、防衛費増額に向けた財源確保の動きや金融所得課税の見直しなどで、将来の税負担が重くなることも考えられる。全体的な税負担が変わらない又は増えるようなことになれば、景気がいつまでも回復しないことが懸念される。	
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・つい最近までの人手不足がうそのように、仕事量が不足し始めている。今後の景気はやや悪くなる。	
	×	—	—	
	雇用 関連  (北海道)	◎	—	—
		○	—	—
□		人材派遣会社（社員）	・新年度を控えて、企業では業績の拡大を目指し、人員体制の強化に動いている。4月になると、新卒者の入社により、企業の人員数は増えるものの、新卒者は飽くまでも将来の戦力であるため、現状は即戦力となる中途採用を積極的に進めるとみられる。	

□	求人情報誌製作会社（編集者）	・衆議院選挙の結果を受けて、経済に新たな刺激が生じることを期待したい。ただし、物価高を解消するような政策が打ち出されない限り、状況は変わらない。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の人手不足が慢性化している一方で、新規投資や採用拡大に踏み切れないケースが多い。求人を出しても、応募が限定的なことから、企業では採用難とコスト増加が進行しており、先行きの回復材料に乏しい。観光や季節需要で一時的な動きはみられるものの、地域経済全体を押し上げるような力強さはみられない。
□	職業安定所（職員）	・ここ4か月のうち、新規求人数が大幅に減少した月が3回あったものの、今後も同様の傾向が続くとは考えにくい。
□	職業安定所（職員）	・当地の1月の新規求人数は前年を4.4%上回り、3か月ぶりの増加となった。一方、月間有効求人数は、3か月連続で前年を下回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
□	職業安定所（職員）	・今後の景気の良しあしにつながるような環境の変化が見当たらない。企業数社へのヒアリングでは、生産量が落ち込んでいるとの話であり、今後の利益確保に向けて、省人化や省力化を進めるよりも、現状を維持することがメインの考え方になっている。
□	職業安定所（職員）	・求人企業も求職者も堅実に活動しているものの、慎重な動きとなっている。当地の景気が好転するような情報は聞こえてこないことから、今後も景気は変わらない。
□	学校〔大学〕（就職担当）	・今後の景気が回復するような要因は見当たらない。ただし、求人数が落ち込むことも考えにくい。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・世界情勢や国内情勢の劇的な変化がない限り、景気は横ばい又は下向きで推移することになる。
×	—	—